

『「命」について考えた事、感じた事』

北海道

砂川市立砂川中学校 一年

久保 柚月くぼ ゆずき

今回、命の大切さを学ぶ教室、講師の生井さんのお話を聞き、思い出すだけでも辛いはずなのに話をしていただき、とてもありがたく思っています。

私がお話を聞いて一番最初に考えたことが、「自分の家族だったらどうか」でした。生井さんの娘さんは、急に連絡が途絶え、家のまわりには娘さんのぼうしやおしつぶされたような靴があったそうです。警察に捜索願を出し、事故、事件性を視野に入れ、寒い冬の中外を探し、娘さんの遺体が見つかったそうです。生井さんは、遺体を確認できなかったとおっしゃっていました。私も、自分の家族かもしれない遺体を見るなんて、どうしても苦しくなると思いました。娘さんの命をうばった犯人は、写真もあり、色々な情報も分かっていたのに、時効になってしまい、結局犯人はつかまらなかったそうです。犯人を捜している間は、謝りながら大声で泣いていたり、自分を責めたり、犯人を恨んだり憎んだりとおっしゃっていました。自分を責める必要なんて少しもないのに。優しく、とても家族思いな人だと思いました。もしもこんなことが自分にも起こったらと想像するとすごく怖いし、私だったら時効になっても、見つけてなにもできなかつたとしても死ぬまで犯人を探し、追い続けると思います。絶対に許さないです。

お話を聞いている間、私は「なぜ何も悪くない人が他人に幸せを、将来を奪われなければいけないんだろう」と思いながら泣いてしまっていました。その人の人生はその人のもの。どう生きていくかはその人しか決められない。人生は誰かに邪魔をされたり、簡単に奪われたりすることは、絶対に許されないことだと私は思います。

生井さんは私達に、「簡単に命を奪おうとしないで、考えて前に進んでほしい」と言ってくださいました。その言葉を聞いて、命より簡単に奪えて、こんなにも重くて大切なものはないなと思いました。犯罪は時間が経つたびに人の記憶からうすれてしまうことが多いです。ですが、犯罪で誰かの未来が奪われてしまっていることだけは忘れないということを、改めて思い知らされました。

いつ誰が巻き込まれてもおかしくない犯罪。涙ながらにお話ししてくれていた生井さん。聞いていて、自分が今までどれだけ事故・事件に巻き込まれず幸せに生きられていたかということを感じました。とても重くてなによりも大切にしなければならぬ、一つの命。今までもとても大切にしてきましたが、これからはもっともっと大切にしようと思いました。そして、なにがあっても決して人の命を奪おうとしない、と心に誓いました。犯罪が少しずつでも減ることを、願っています。